

令和7年度

第1回連携中枢都市圏ビジョン懇談会議事概要

日 時：令和7年11月26日（水）午後2時30分～4時

場 所：鳥取市役所 7 階議会全員協議会室

出席者：委員	出席	下田敏美委員、田中節哉委員、田村正弘委員、谷口正友委員、 田中雅之委員、森山武委員、谷口透委員、石井康裕委員、大形快生委員、 太田章太郎委員、木村昭委員、佐藤竜也委員、水谷和尚委員
	欠席	川夏博志委員、佐藤順委員、小坂祐司委員、甲田紫乃委員、 升田弘法委員、太田垣修委員

オブザーバー 鳥取県地域社会振興部東部地域振興事務所長 藤田美奈子 所長

事務局 鳥取市企画推進部政策企画課長 上田貴洋、同課係長 山中郁子、
同課主事 浅井研人

岩美町企画財政課課長補佐 前田悟史、若桜町企画政策課長 中島毅彦、
智頭町企画課課長補佐 岸本正樹、八頭町企画課長 岡崎好美

香美町企画課長 田中徳人、新温泉町企画課長 西脇一行
鳥取市総務部人権政策局次長兼中央人権福祉センター所長

鳥取市市民生活部地域振興課長 河上昌輝
鳥取市経済観光部次長兼経済・雇用戦略課長 渡邊大輔

鳥取市経済観光部次長兼観光・ジオパーク推進課長 平

鳥取市農林水產部農政企画課長 小谷昇一

鳥取市都市整備部交通政策課長 宮谷直司

1715

— 10 —

○ 丘副委員長の退任

田畠美安貞を委員長に選出、田村正弘委員を副委員長に指名

4 說明

(1) 連携中松都市開発事業について 資料1-1、1-2

(資料1-1、1-2について事務局説明)

5 議事

(1) 第2期因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏ビジョンの達成状況について（令和6年度）

.....資料2-1、2-2

(資料2-1、2-2について事務局説明)

(2) 第2期因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏ビジョンの取組状況について（令和7年度9月末時点）

.....資料3

(資料3について事務局説明)

○主な意見・質問等

＜委員＞

それぞれの事業をそれぞれの担当課の皆さん一生懸命頑張っていただいた結果が表れてい るのかなと思う。ただ、圏域全体としたときに、共通の圏域ブランドといったようなものがなかなか見えづらい。また、連携事業はたくさんあるが、やはり一番大切なのは、圏域内での移動時間というか、インフラの部分、例えば、高速道路が開通していなかったり、鉄道の便が大変不便で、香美町から鳥取市までなかなか移動しづらかったりなど、その辺の部分については、やはり重点的に取り組んでいただけたらありがたいのかなと感じている。

＜委員＞

麒麟のまちの圏域で考えたときに、目指すべき姿を具体的に何かできるような形にしていきたいと感じている。今まで既に取り組んでいる事業は確かにその目標として、やっていただいたらいいなと感じている。ただ、せっかく麒麟のまちというキーワードで鳥取市が中心となって、圏域をもっと活性化していくような話し合いができると期待しているので、この後、皆さんでそのような話ができるといいなと思っている。

鳥取県といえば農業県。この農業県であるという魅力を付近の近隣市町村と一緒にになって、それぞれの特産を結びつけるような働きができたらいいなというふうに思っている。

私のアイディアの一つとしては、やはり鳥取県で言えば白いネギの産地として有名な地域であるし、そのネギが海産物や肉、その他いろいろ農産物と絡み合うことで、もっともっとこの麒麟のまちエリアを通じた農林水産業を一手にまとめるような構想がどんどんできたら楽しいなというふうに思っているので、将来こうあつたらいいよねとか、それに向けてどういうことをしたらいいのかなという話を進めていっていただいたらと思う。

本当に市町村ですごく頑張っていただいているとは思うが、やはり縦割りになっていて、連携というのがうまいことまだまだ取れてないのかなというのが私の実感である。

＜委員＞

気になった点として、婚活に関してだが、昔に比べて未婚率が上がっているようなこと言われている。私的な意見としては、昔に比べてお見合い等が減ったということもあるし、あとは1人でも生きていく上で楽しみというか、生き甲斐の方を見つけやすかったり、インターネット

も普及していたり、そういうことも要因としてあるのではないかなと思っている。

その中で、人口減少や少子高齢も進んでいるので、いかにして歯止めをかけていくのか考えていかなければならないと思った。

＜委員＞

連携ビジョンの全体像を見たときに、KPIの達成状況が「一定の圏域人口を有し、活力のある社会経済を維持するための拠点の形成に資する」設定となっているのかということは意を用いていただけた必要があると思っている。それぞれの事業の達成状況を確認するためには非常に重要な指標であるかと思うが、それが最終的な目標に向かって意味のあるものになっているのか、あるいは事業自体がそうなっているのかということを、今一度全体として確認をすることが必要なではないかと思う。どのようにこの圏域をまとめていこうとしているのかといった、しっかりとスクラムを組む姿が見えるようにお願いしたい。

最終的に目標値として一番重要なのは、人口なのかなと考えている。目標値として令和7年国調の人口24万3,200人ということだが、この4月1日が23万9,000人ということで、4,000人弱くらい下回っているということでなかなか厳しい状況かなというふうに思っている。先ほどKPIの話をしたが、そういうものがこれにどのように繋がっているのかということ、人口の維持などにどう繋がっているのかというような視点を持っていただけた必要があるのではないかと思う。

また、圏域としてこの人口ということではあるが、鳥取市もさうだが各町にも人口の減少の度合いや高齢化率などいろいろ濃淡があろうかと思う。全体の数はこれでいいのかも知れないが、各地域でそれをどう捉えておられるのか、全体を把握して推進をしていくことが必要ではないかと思ったところである。

＜委員＞

本学では鳥取県の1市4町の自治体の方々にいろいろなプロジェクトで研究などにご協力いただけた感謝している。

人口・定住という話があったが、この研究のプロジェクトでは学生を地域に連れ出すということに最近重きを置いている。先生が1人研究するのではなく、学生を連れて地域に出かけていく地域のことを知り地域の方と触れ合うということで、地域を好きになっていただけ、運よければ、その地域に就職していただけというようなことも考えて事業を展開するようにしている。

また、若者の定着ということで、学生と若手社会人との交流事業というようなものに令和7年から取り組んだとのことだが、本学の方でも何年も前からこのような取組を行っているので、こういう面でもいろいろご協力できたらいいのかなと思っている。若者交流の社会人としては、やはり「行政」というのが学生には人気があるので、行政の皆様も本学の学生を定着させするということにご協力いただけたらと思っている。

＜委員＞

圏域の目標人口っていうのが第一に書いてあり、現時点では推計人口ではあるが、目標値までは厳しいのかなというところは見てとれる。

そういう中で、やはりこの圏域の活性化ということに欠かせないのは、おそらくそれぞれが連携し、この圏域を訪れる方、観光客などを増やしていく消費を高めていくというところにも繋げるということが大きいのではないかと考えている。

この中で、例えば、宿泊旅行者の観光消費額の令和9年度目標値が3万7,000円であるのに対し令和6年度末時点で3万9,331円とかなり達成している状況である。ただ、これが本当にたくさん使ってくれるようになったからなのか、単純に物価が上がったからなのかなど、その辺りの背景も含めて、ちゃんと地域が潤っているのかといったような計り方も必要なのではないかというふうに考えている。

<委員>

たくさんの事業をされており、びっくりしたというのが正直な気持ちである。私は新温泉町の一番鳥取県に近いところの諸寄に住んでいるが、鳥取との連携は時間的にも移動の部分でも、ものすごい大きく近づいてきたと感じる。しかし、まだまだ地元の住民の中では、いろいろな課題がある。高齢となって、免許を返納しても公共交通機関の本数が少なく使えないとか、病院に行こうとしても、見てもらいたい診察科がなかったり、お医者さんが少なくておられなかったり、救急の場合にはすぐに行けなかったりなど。地元の1人1人、特に多くなってきている高齢者の課題を連携中枢都市圏の取り組みによって、連携をしながら悩んでいる課題を解決できるかというふうなことについて、意見を出し合ってこんな取り組みをしないといけないとか、こういうふうにすればもっと周辺の市町みんなの生活が安心して向上していくのではないかといったような話し合いのイメージで参加をさせてもらっている。行政的な面で、達成率や進捗率がどうで、といったことの知識がなかったので、今後一生懸命勉強して参加をさせていただきたいと思うが、ぜひこれから以降のこの会議の進め方について、先ほど言ったように、新温泉町では待ったなしの高齢化率の上昇と人口減少という大きな課題があるので、それについて、この会で同じような状況にある地域の方と連携して意見交換をしながら参考にして、地域の活性化に繋げていけたらというふうな思いで参加をさせていただいている。

<委員>

僕は八頭町の郡家駅の中の観光案内所の職を持っているもので、若桜鉄道やJRの因美線、智頭線などいろんな交通機関のハブのところにいる。そこには高速バスも走っているし、その他のバスもある。県外の方が来られた際、ICOCAとかIC系のものが郡家で急に使えないなくなるので、汽車に乗ったままの状態のカードで降りてしまうといったようなことが結構ある。智頭もあるのではないかと思うが、観光案内所の窓口にICカードの件で来られるのだが、その解除というか処理はJRに行ってもらうしかないようで。窓口でそのように尋ねる人もいるが、把握はできないが、何もなく行っている人もおられるかと思う。

この圏域だけではなく、圏域の外に必要な情報をどういうふうに伝えていくのかということもまた課題なのではないかなと思って話を聞かせていただいた。

<委員>

人口の目標値という話があったが、維持しようと思ってるのか、増やそうと思ってるのかとい

う観点がちょっと伝わってこないと感じた。

増やすというのはちょっと難しいということはもう当然なのだが、智頭町も 5,000 人をもう切ろうかという状況なので、もう待ったなしという状況。1万人からもうあつという間に20年程度で5,000人位になってしまい、1人が1人を肩車するというような時代になってきている。住んでいる者だけで何かをしようというと、ちょっともう無理があると思う。

僕らも人口が1万人切るときに、何とかしようということで頑張ったが、緩やかに減らそうというぐらいしかできないということで、どんどん減っていくという状況。智頭町から鳥取市に人がいっぱいいっているので、何かのときには戻ってきてもらうとか手伝いに来てもらうというような、そういう連携をしていく、例えば、サポーターやファンといった形で応援したいというような関係人口を増やしていくっていうようなことがあつたらいいのかなと思う。

また、智頭町内ではバスもタクシーもなくなり、今、「のりりん」という住民が講習を受けて、2種の資格まではいかないが資格を持って住民を乗せて送り迎えするというようなことをやっている。今のところ、何とかやっているが、やはり高齢化しているということで、多少事故があつたりということもあるので、そういったことも今後、考えていかないといけないと考える。

＜委員＞

資料の説明長すぎるというか、皆さんお忙しい中、来てるのに時間がもつたいないなと思う。次回以降、事前に資料でもらっているので、説明を短くしてもらつたらなと思う。

当日配布資料で、事前意見として出させてもらったが、通常は大阪-鳥取間の高速バスは智頭経由便であるが、今、若桜町が助成して若桜経由便を出していて、単純に鳥取と大阪を結ぶだけではなくて、その間で降りてもらうというような観光の取り組み。鳥取で降りた場合、日帰りも可能だが、例えば若桜や沿線で降りた場合は、多分、鳥取市内に泊まって、飲んで食べて、宿泊して帰るのであろうかと思う。公共交通の部分と観光との部分が、他の智頭線や因美線の利用事業とか、JRの利用事業とかも個別に出ていて、それと観光の方としっかり組んでやれているのかなと、個別個別で事業が進んでいて、絡まつていないのでないかなと感じたので事前意見として出させてもらった。

先ほど、資料3の10番の農産物販路拡大支援事業で、全市町のスケジュールが合わないので関西圏での直販会の開催が難しいとの説明があった。原因は分析できているが、今後どうやってするのかということが全然説明がなく、そこら辺も解決策というか、そういうものをちゃんと出すなり、出せないんだったらこういう場でいろいろ意見を集うとか、そういったことが必要なのかなと思う。

＜委員＞

今回初めて参加し、こんなにたくさんの事業を行っているということを初めて知った。こういった公共の事業などの目標を達成していくには、やはり市民や町民の方々のご理解や協力、そして参加が必要になってくると思う。どういう活動を行っているのかということを発信し、皆さんが関心を持って、会議だけで解決しようということではなく、市民、町民の方全体で問題を解決していくふうな意識を持っていくところが非常に大事になってくると思

う。情報発信を含めて、情報を提供していくことが大事になるのではないかと感じた。

＜副委員長＞

事務局の方で、まず今やっていることをしっかりと説明して、その上でどのように進めようかということを考える出だしだったのではないかと思う。改めて皆さんのご意見も聞いた中で、このメンバーに何を期待して、どのようなアウトプットを望んでいるのかということをはっきりさせた方が間違いないいいだろうと思う。それとあわせて、年間どのような回数で、いつどういうことをやっていくのかといったようなことをイメージしてみないといけない。一般的に言うと、「意見を聞く、論議をする、結論を出す」といったようなステップが必要になってくると思うので、それとあわせて、期待することとそれをどのように実現していくかということの会議スケジュールが必要不可欠だろうと思った。

また、やはり今までのやり方の延長線上ということでは、なかなか解決ができないことということが多いと感じる。連携中枢都市圏の事業で、国から財源が入ってくるからということもあるが、長い道のりで見ると、財源も減ってくるし、人もいないといったことが目の前で横たわっている。やり方を変えるとか、あるいは、その役割を見直していくとか、優先順位をきちんと決めるだとか、簡単ではないだろうが、そういったことを進めないと、なんとなく絵に描いた餅のように、「こうあったらいいよね」みたいなことが続くんだろうなという思いもちょっとだけあつたりする。

＜オブザーバー＞

たくさんの事業を進捗されるご苦労を感じるとともに、新しい委員さん、とりわけ若い方もせっかく来ていただいているので、委員さんの意見をしっかりと聞くということが、やはり行政側にとっては非常に宝物なんだろうなと思う。いろんな意見をまずは聞いて、それを今回のビジョンにどうやって反映させていくのか、策定・変更に関してどのように反映できるのかという道筋を委員さんに説明されるといいのかなと思う。

それから、せっかく圏域でやっていくというスケールメリットを生かすためには、どうやつたらいいのかなと、特にその交通インフラなどはなかなか難しいところではあると思う。

私は市町を回らせていただいて、やはり駅というのはすごい大事だということで、駅を住民の拠点としても活用していきたいということを検討されていることもお伺いしている。そういうことを圏域でどう方向づけていくかなというような視点でも、個々の市町村にとどまらない圏域としての視点をこういう会でも反映できたら、尚いいのかなと思う。

＜事務局＞

全委員の皆様から、それぞれの思いや会議の進め方も含めて、いろんなご意見をいただいた。

私はこの会議のあり方といいますか、まず、前委員さんのご意見、ご提案などもいただいて取りまとめたこの5カ年のビジョンの実現に向けて、1市6町の現場の課がいろいろな施策を話し合いながら作った。それを圏域代表の皆さんにお示ししながら、これは進んでる進んでないか、もうすこし工夫が要るのではないか、こんな取り組みをやってみたらどうだというような幅

広い意見交換をいただき、プラスアップしていくのかなと思っている。次回はそういった自由な意見交換をもっとお願いできればと、そういう運営ができたらなというふうに思っている。

人口が減っていくというお話がいくつか出たが、各町も鳥取市も人口が減っている。人口の維持なのか増やすのかというようなお話もあったが、人口については、高齢化しているため、どうしても自然減が大きくなっていく。一方、出生数はどの市町とも下がっているので、これを和らげながらどうやって減速させていくのか、また、減っていった人口に対してどう対応していくのかが重要であると考える。

最近、「スマートシギリング」という言葉が出てきているが、簡単に言うと、賢く縮んでいくということである。「縮む」というと何かマイナスなイメージをすごく抱くのだが、避けられない未来であれば、そこは上手にやりくりしていくということが大事なのかなと思っている。そのときに、単独の市町で頑張る部分もあるのだが、例えばICOCAの話や高速道路網の整備について、1市6町で一緒に声を上げていくなど、できることをやっていくというのが大事な分野であり、そのための国が用意した仕組みだろうと思っている。全国の40ぐらいの圏域の自治体がまとまって、今まであまりなかったような取り組みを開始したというところが、やはり大事なところかなと思う。

今日もたくさんご意見いただいたが、個々の意見についても現場の課と共有させてもらいうがら、いろいろとアイディアを考えていきたいと思う。

6 その他

特になし

7 閉会